

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【常盤中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	各教科で高い水準を維持しつつ、特に理科、社会において基礎的・基本的な学習を向上させる。そのために、ICTをより活用することで、視覚的、体感的に多くの知識を学ぶことができる授業の研究を進めていく。
思考・判断・表現	各教科で高い水準を維持しつつ、文章の読解力や表現力の更なる向上を目指す。そのために、日々の朝読書の環境設定をはじめ、各教科で説明する力を養っていく。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	＜学習上の課題＞ 国語・数学の「知識・技能」において、高い水準を維持しつつ、令和6年度全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査の自校の結果より2ptの向上を目指す。 ＜指導上の課題＞ 生徒一人ひとりが課題を設定し、解決する能力をつける授業を学校全体で取り組んでいく。また、教科横断的な授業づくりをしていく。	⇒ 1年を通して、教科会を月1回行い、自ら課題設定できる授業の検討と、他教科と打ち合わせをする時間を設けて教科横断的な授業づくりの検討を行う。
思考・判断・表現	＜学習上の課題＞ 国語の「読むこと」、数学の「資料の活用(資料を読み取ること)」において、高い水準を維持しつつ、令和6年度全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査の自校の結果より2ptの向上を目指す。 ＜指導上の課題＞ 朝読書の時間を確保し、生徒が静かに書物を読む環境づくりを全教職員で行う。	⇒ 1年を通して、朝読書の時間の10分間を継続し、時間を確保することで、日頃から書物に親しむ機会を増やす。

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	A	教科横断的な授業作りを実施する中で、自ら課題設定できる授業の検討とともに基礎的・基本的な学習の向上に向けて教科会を行うことができた。 また、全ての教科において校内平均が高い水準を維持し、昨年度の結果より微増することができた。
思考・判断・表現	B	落ち着いた環境下での継続的な朝読書を実施し、読解力とともに表現力を高めていくことができた。 また、全ての教科において校内平均が高い水準を維持することができ、国語、社会、理科においては昨年度の結果より増加することができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	令和7年度全国学力・学習状況調査の結果により、全国や埼玉県と比較し、国語では約5%程度、数学においては10%以上正答率が上回った。理由としては、教科会において、教科横断的な授業作りを行い、検討することが増えたことで知識・技能が向上したと考えられる。
思考・判断・表現	令和7年度全国学力・学習状況調査の結果により、国語の読むことの項目が全国や埼玉県より正答率が6%以上上昇した。その理由としては、朝の10分間の読書を継続していることで、文章を読み解く力が上昇したと考えられる。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	令和7年度さいたま市学力状況調査の結果により、さいたま市全体と比較し、中1・中2ともに全教科で正答率が5～11%程度上回った。各教科において、基礎基本的徹底や他教科とのつながり等を考えた授業展開を検討する機会がより多くなったことに起因していると考えられる。また、教科会において各学年各クラスの情報交換が行われ、教科指導の充実を図っている。
思考・判断・表現	令和7年度さいたま市学力状況調査の結果により、さいたま市全体と比較し、中1・中2ともに全教科で正答率が3～10%程度上回った。10分間の朝読書の継続により、文章の読解力が身に付いたことによる問題文を理解する能力や、物事を説明する力や言葉で表現する力が養われているためであると考えられる。また、基礎能力が高いため、発展的な課題に積極的に取り組む生徒も多い。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	月1回の教科会を実施し、自ら課題設定できる授業の検討と、教科横断的な授業づくりの検討ができた。	教科会の内容を、校内研修で検討し、精査していく。 他教科と連携し、カリマネデザインマップを更新していく。
思考・判断・表現	B	朝読書を継続的に行うことができ、表現力を向上してきた。	朝読書の質を高め、さらに読解力を深めることで生徒の表現力も高める。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)